

目次／共同展 被災資料再生の今 表紙／事業報告 三陸防災復興プロジェクト2019三陸ジオパークワクワクフェスタいわての海とジオの魅力展 国立科学博物館と岩手県立博物館の共同巡回展示 「生命のれきし〜君につながるものがたり」p.2-3 / 展覧会案内 共同展「被災資料再生の今〜過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ〜」の開催にあたって p.4-5 / 事業報告 教員のための博物館の日 事業報告 第77回自然観察会 相の沢キャンプ場 p.6 / 活動レポート トピック展 ホネの動物園2019 事業報告 令和元年度自然体験活動における安全管理研修会 p.7 / インフォメーション p.8

## 共同展

# 被災資料再生の今

—過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ—

令和2年1月11日(土)～2月24日(月・祝)

修理前



修理後



岩手県立博物館では2011年4月2日以降、東日本大震災で被災し、岩手県太平洋沿岸部から救出された資料の再生を続けています。古文書や雑誌類については現在21の工程で再生が進められています。処理する古文書の中には腐敗が進み、紙面の一部が欠失した資料が数多くみられます。資料を補強し取り扱いを容易にするため、すきばめ機を使って新しい繊維を欠失部に補填します。



■事業報告

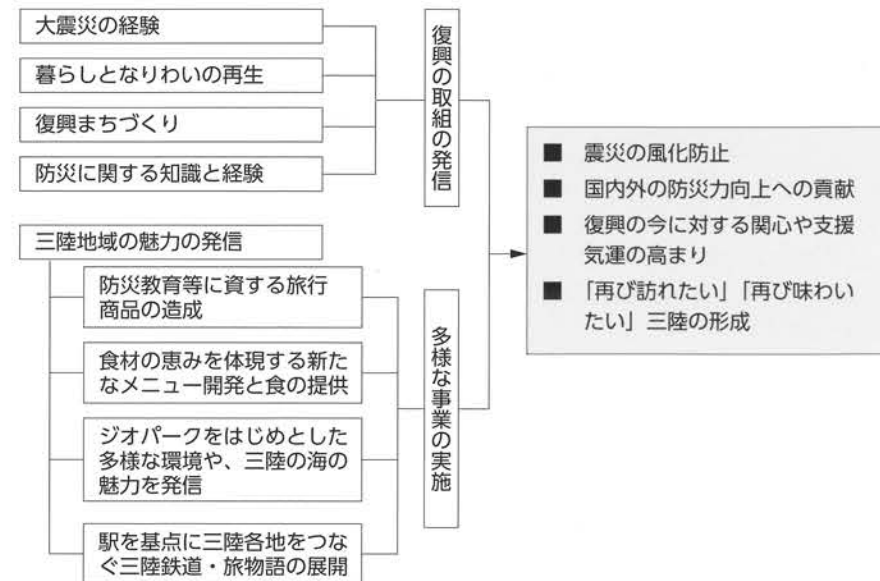
三陸防災復興プロジェクト2019 三陸ジオパークワクワクフェスタ いわたの海とジオの魅力展

岩泉会場/小本津波防災センター 令和元年6月2日(日)~16日(日) 大船渡会場/大船渡市立博物館 令和元年6月22日(土)~7月15日(月・祝)

令和元年6月1日から8月7日まで、「三陸防災復興プロジェクト2019」が催されました。沿岸部でのイベントでしたが、県立博物館もこのプロジェクトに参加していたということをご存じでしたか? そのあらましを報告します。

■三陸防災復興プロジェクトとは

防災復興プロジェクトの目指すところは「復興に取り組み、新しい三陸の創造に向かう姿を発信し、復興への関心を高め、震災被害による記憶の風化防止や防災力向上と、繰り返し訪れてもらえる三陸地域の形成を目指す」というものでした。特に「三陸の魅力」を発信することに重点を置いたプロジェクトは22もの事業からなり、それらがまたいくつかのイベントや事業からなる大規模なものでした。その中の「三陸ジオパーク ワクワクフェスタ・岩手の海とジオの魅力展」は、沿岸の7つの館(久慈・もぐらんぴあ、宮古・崎山貝塚と水産科学館、釜石・郷土資料館、山田・鯨と海の科学館、大船渡と陸前高田・市立博物館)が復興プロジェクトのコンセプトに沿うかたち



防災復興プロジェクトの目指す姿



「生命のれきし」展 ちらし

で共同しながら展覧会やイベントを催すというものです。参加館を見て分かります。地理的に離れ扱う分野もさまざま、準備期間も非常に短いことから県立博物館(以下、県博)は展示への直接の参加・協力はできないという立場でした。しかし実行委員会はこれらの館の展示を補完するような事業が何かできないかと模索していくうち、東京上野の国立科学博物館(以下、科博)との間で話が

進み、科博は「県博が間に入ってくれるならば」展示に協力するという事になり、半ば指名される形で県博地質部門がプロジェクトに参加することになったのです。

■なぜ国立科学博物館が?

プロジェクトへの参加が決まったのは開催1年前の秋でした。科博は全国各地で巡回展示をおこなうためのパッケージ(注:展示物・展示ケース・説明パネルなどがまとめられ、会場さえあればどこでも展覧会を開くことができる)、「生命のれきし~君につながるものがたり~」を製作中で、展示先を探しているところでした。これは地球46億年の歴史を生物進化から紹介する内容で、「君」とは我々人間のことです。実は当館でも展示している「気仙隕石」の本体106kg分(県博で展示中の物はその一部の1080g)や、モシリユウ上腕骨の実物(県博の物はレプリカ)を収蔵しているなど、少なからず繋がりがあります。モシリユウを発見したのは当時の科博の研究者で、発掘や研究に県博も関わりましたがやはり科博の力に依るところが大きいのです。また、平成28年に県博で開催した「古生代の大量絶滅と回復-進化の光と影」展では多くの化石を借り受け、展示させていただきました。その巡回展示



岩泉小本会場、来場第1号

国立科学博物館と岩手県立博物館の共同巡回展示 「生命のれきし~君につながるものがたり」

先の岩泉町は展示中に台風10号によって未曾有の洪水被害を被り、会場だった町民会館は被害を免れましたが避難所となり、巡回展示も途中で打ち切られていたのです。科博は三陸復興への協力とともに岩泉での仕切り直しということもあって、防災復興プロジェクト「岩手の海とジオの魅力展」に新たに追加する形で国立科学博物館と岩手県立博物館の共同巡回展示「生命のれきし」展の開催が決まりました。

■展示準備

今回は展示内容・展示物が決まっており、展示ケースやパネル類なども大半が準備済みでした。代わりに、個数や大きさが決まっている展示物を実際の会場に



展示説明会 岩泉小本会場(6月16日)

どのように配置するか検討が必要でした。また、展示のためには梱包を解いて組み立て作業を行う場所、運搬用のコンテナなどを保管する場所も必要です。今回は恐竜2体の組み立てがあり、展示場所のほかに荷解きと組み立てのための作業場所が不可欠でした。そのため、岩手に先んじて展示を行った北海道博物館に足を運んで会場レイアウトの参考とし、運送計画の参考にと東京に行って、梱包状態の確認も行いました。展示会場では組み立て場所が確保できるか、コンテナの収容場所があるか、なにより運搬用のコンテナ類が扉や通路、エレベーター

などを通過できるかなどを確認しました。さらに科博の展示物に、岩手の要素として「P/T境界層」、「モシリユウ上腕骨」など県博の収蔵物をいくつか盛り込み、北上山地の形成過程を説明する動画を新規に制作して会場で上映しました。展示内容と展示物の大半は科博に頼りましたが、東京~岩手間の輸送計画、会場毎の展示レイアウトや作業など具体的な計画の策定は、岩手県博でおこなったのです。

■意外と多い岩手県産標本

岩手の重要度を再確認

地球46億年の歴史を生物進化から迎える展示ですが、誕生直後の地球は生物不在のため陸前高田に落下した日本最大の隕石「気仙隕石(破片)」が来場者を出迎えました。古生代コーナーでは発見当時日本最古(シルル紀)とされた大船渡産サンゴ化石、日本最古の植物化石(釜石・デボン紀)が並べられました。コーナーの最後には地球史上最大の生物絶滅があったとされる古生代最末期~中生代にかけて作られた岩石「P/T境界層」が展示され、子どもたちに大人気だった2体の恐竜骨格標本(ニッポノサウルス、ティノニクス)の足下には日本最初の恐竜発見例となった「モシリユウ」上腕骨が展示されました。こうしてみると、岩手県は地球史上の重要な場面の証拠を埋蔵している場所の一つであるということが分かります。来場後、ほとんどの子どもたちは順路と関係なく恐竜に向かっていきましたが、大人では北上山地の形成過程を説明する動画に見入る方が多くおられました。長さ1分少々動画を繰り返し上映したのですが、スクリーンの前で10分近く歩みを止めていく方もおられました。会場の看板類は生物が誕生

した「海」をイメージして水色で揃えられ、会場の壁には実際の科博の展示室(哺乳類・恐竜の骨格展示室)の様子をそのまま写しとったタペストリーを会場のほぼ全周に渡って掛けていたので、展示物に興味無いまま子どもに引かれて来場したお父さんたちも、期待を持って来場された方にはより一層、博物館の雰囲気を感じてもらえたと思います。



大船渡市立博物館 展示作業の様子

実際の展示は会場の都合により岩泉・小本津波防災センターで6月2日(日)~16日(日)、大船渡市立博物館で6月22日(土)~7月15日(月・祝)と、夏休み前に終わってしまいました。この時期は部活動や各種大会、試験などとも重なるため、残念ですが中・高生の来場はほぼ皆無だったようです。それでも小本で約800人、大船渡市博で約1200人、計約2000名の方々に足を運んでいただきました。これは全く望外の来場者数です。展示に際しては各会場の担当の方と、なによりも国立科学博物館の担当の方々には打ち合わせや会場下見、展示・撤収作業まで幾度となく岩手に足を運んでいただきました。岩手に滞在した日数は延べ2週間を超えているはずですが、お陰様で復興プロジェクト「岩手の海とジオの魅力展」共同巡回展示「生命のれきし」展を成功裏に終わらせることができました。この場を借りて御礼申し上げます。

(主任専門学芸調査員 山岸千人)



## ■ 展覧会案内

## 共同展「被災資料再生の今—過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ—」の開催にあたって

会期：令和2年1月11日(土)～2月24日(月・祝)

## ■ 共同展の開催

岩手県立博物館では、当館を中核館、東京国立博物館、陸前高田市立博物館、特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)、公益財団法人日本博物館協会を主な構成機関とする「津波で被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」と連携し、文化庁の助成を受け、共同展「被災資料再生の今—過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ—」の開催に向けた準備が進められています。

共同展では改良された安定化処理方法、新たに構築された安定化処理方法の概要と、それらの方法を用いて再生された資料を紹介しつつ、資料が携えてきた未来へのメッセージを解説いたします。

## ■ 連綿と続く安定化処理

## — 異臭や変色への対応 —

津波で被災した資料の再生に不可欠な安定化処理は、「除泥」、「除菌」、「脱塩」の3つを基軸とします。思考錯誤のうえ、古文書や書籍類といった紙を素材とする資料を対象とした安定化処理の具体的手順が当館において構築され、2011年5月以降、その手順に従って当該資料の措置が施されてきました。措置は順調に進み、多くの資料が活用できるまでに再生されましたが、2014年に東京文化財研究所と共同で行った経過観察によって、保管していた資料の中に異臭を放つ資料や黄褐色に変色した資料が相当数確認されました。その後の調査で、同様の現象は網や縄といった繊維を素材とする漁撈用具にも認められました。さらに、脱塩処理の過程で資料を浸漬する水道水を交換することなく長時間使用した場合にも、同様の現象が生じることが判明しました。

東京文化財研究所と共同で異臭や変色の原因を調査したところ、資料に残留する魚介類由来の油分が細菌で分解され生成する化学物質によって引き起こされた現象、いわゆる嫌気性発酵による可能性の高いことがわかりました。陸前高田市広田湾では、魚介類の養殖が行われています。海底には魚介類由来の脂質やたんぱく質を含むヘドロが堆積していて、それが津波によってもたらされ、資料に固着したことが主因と推定されました。

一連の調査結果を受け、残留する油分を除去するため、医療用の中性洗剤による洗浄がこれまでの措置に新たに付け加えられました。さらに、洗浄や脱塩に要する時間を短縮し、処理中の細菌発生を抑制するため、それまでの古文書や書籍類1冊をそのまま水道水に浸漬する方法から、可能な限り解体して浸漬する方法に改めました。加えて、一昼夜ごとに脱塩液を交換する方法から、午前と午後2回交換する方法に変更しました。



解体した古文書の中性洗剤による洗浄

津波による油分の影響が、救出された多くの資料に及んでいることは間違いありません。そこで、紙を素材とする資料に続き、民具や染織資料の安定化処理にも中性洗剤による洗浄が加えられました。2016年、昭和女子大による安定化処理が開始された当初から、異臭の発生が確認された写真プリントについては、中性洗剤による洗浄と、流水による3時

間程度の脱塩処理が進められています。

2018年暮れの東京国立博物館による調査で、岩手県指定文化財吉田家文書の構成資産である気仙郡村絵図にも相当量の油分の残留が認められ、その後の調査で一部の資料に異臭や変色の発生が確認されました。



村絵図の臭気調査(2018年12月)

村絵図は染料の変色や溶失の恐れがあるため、中性洗剤による洗浄が困難です。アクリル画や油彩画、水溶性インクなどで書かれた書簡類も同様で、これらの資料からの油分除去は今後克服すべき大きな技術的課題です。村絵図については東京藝術大学が電解水等を用いた洗浄法の開発を進めています。共同展では様々な資料に対し構築された安定化処理方法の概要を、実物資料と共に紹介します。

## ■ 資料から学ぶ(1)

## — 文献資料からみえる三陸の暮らし —

被災資料再生の大きな目的は、資料を未来に残すこと、そして資料が持つ情報を改めて読み解き学ぶことにあります。再生した一部の資料については、安定化処理とその後の経過観察に従事した研究者による学術調査が並行して進められてきました。

岩手県指定文化財『吉田家文書』の経過観察に伴って行われた解説では、次のことが明らかになりました。1853(嘉永6)年に米国のペリーが来航し、翌年、

日米和親条約が締結され、箱館(現在の函館)が開港されたのを契機に、幕府は東北諸藩に出兵を命じ、蝦夷地の警備に当たりました。盛岡藩は箱館から室蘭までの噴火湾沿岸を受け持ち、室蘭と長万部周辺を領地としました。仙台藩は白老に広大な陣屋を築き、蝦夷地領の防備と経営に当たりました。

多くの鹿が生息する気仙地方では鹿皮の細工技術が発達し、椎茸の栽培も行われていました。これらの技術を蝦夷地に移出し、蝦夷地での生産を進めていたことなど、北方警備の一方で活発な物質文化交流が展開されていた様子がみえてきました。再生された岩手県大槌町前川文書からは、廻船業で身を起こした商人の経済活動の様子が明らかになりました。共同展では文献資料から読み取れる、近世の三陸の暮らしの一端を紹介します。



近世の暮らしぶりを物語る再生された吉田家文書(陸前高田市立博物館提供)

## — 三陸の漁撈 —

水産資源が豊富な盛岡藩や仙台藩の沿岸では、中国(清)への主要産品であった煎海鼠、干鮑、鱈鱈を詰めた俵物の生産が行われ、江戸に出荷されていました。近世に培われた漁法の一部はその後受け継がれ、近現代の広田湾でも用いられていました。再生された陸前高田の漁撈用具がそれを物語っています。

広田湾では磯に生息する海藻や貝類の採取、湾内及びその周辺を回遊する魚類

の漁獲が行われていました。春から秋には黒潮に乗って北上するイワシ、マグロやカツオ等が、秋から冬にはサケやタラ等が捕獲されました。イワシは古くは肥料(干鰯)とされたほか、水や海水で煮沸、圧搾し、搾出した油水からイワシ油が製造されました。共同展では最近再生された漁撈用具を公開し、広田湾で行われていた漁撈の一端を紹介します。



マグロの水揚げに使用されたマンカギ(陸前高田市立博物館提供)

## ■ 資料から学ぶ(2)

## — 岩手博物界の太陽・鳥羽源蔵 —

陸前高田市立博物館で被災した資料の中には、膨大な数の自然史標本(昆虫標本、剥製標本、液浸標本、押し葉標本)がありました。押し葉標本の大半は、明治～昭和初期に岩手県で活躍し、「岩手博物界の太陽」とも呼ばれた博物学者・鳥羽源蔵が収集した資料です。

修理後の調査によって、鳥羽が日本の植物学の父といわれた牧野富太郎や東京帝大教授・本田正次らに送り、新種記載されたタイプ標本の重複標本とみられる



鳥羽源蔵肖像写真(陸前高田市立博物館提供)

ものが、多数存在することがわかってきました。当時の三陸・気仙地方の植物相を知る上でも、他に類を見ない貴重な標本群です。共同展では貴重なコレクションの一部を紹介します。

## ■ 構築された技術の普及

東日本大震災の一部被災地は、2016年8月30日に襲来した台風10号で再び大きな被害を受けました。岩手県岩泉町では町教育委員会が所管する近世から近代初頭の古文書が、遠野市では市立図書館が所蔵する書籍類が被災しましたが、東日本大震災での経験を活かし、文化庁、岩手歴史・民俗ネット等の支援を受け、水損資料を迅速に救出し安定保管しながら、再生が進められてきました。共同展では被災から再生に至るまでの歩みを、パネルを使って解説します。



岩泉町から救出された古文書(岩泉町教育委員会提供)

東日本大震災発災以降、連綿と続けられてきた再生活動によって、2019年9月末現在、約23万点余りの資料の再生を果たすことができました。しかし、被災地では未だ27万点余りの資料が再生の時を待っています。それらの中には、新たな措置方法を構築して対処しなければならない資料が相当数含まれています。今後も関係機関と連携し、その再生を進めていきたいと考えています。引き続き、温かい御支援をお願い申し上げます。(文化財科学部門)



■事業報告

# 教員のための博物館の日

開催日：令和元年8月7日(水)

「教員のための博物館の日」は、学校の先生方や将来教員を目指す学生を対象とし、博物館を楽しみながら、博物館が持つ学習資源としての側面について理解を深めることを目的に行う事業です。平成20年に国立科学博物館で開催されたのをきっかけとし、現在では全国各地の博物館で同様の企画が実施されています。

当館では本事業の実施は今年で3年目となり、県内小中高校や支援学校の教員の方を始めとし、教員を目指す大学生まで幅広い層の方に御参加いただきました。

今回の事業では全部で5つの講座を実施しました。「アンモナイトのストラップづくり」では、実物のアンモナイトの化石を紙ヤスリで削っていき、アンモナイトの殻の内部構造を観察するとともに、

最後にストラップをつけてアクセサリにするという工作を行いました。

「骨からわかる生物の進化」では、トピック展「ホネの動物園」を学芸員と見て周りながら、生物の進化や体の仕組みを学びました。その後に行われた「人体骨格模型組立体験」では、バラバラの状態の人体骨格模型を使い、骨の形からそれが体のどの部分にあたる骨なのかを考えながら骨格の組み立てを行いました。

また、「寺子屋の学び体験」は実際の江戸時代の教科書を用いて、当時の寺子屋の授業を実体験してみるというユニークな内容でした。

最後の講座である「ワクワク！こどもツアー」は当館解説員とともに館内を周り、実物の恐竜の歯の化石や現生のク



アンモナイトのストラップ

マの頭骨などのハンズオン資料を触りながら、生物や生物の進化についての理解を深めるといものでした。

参加された方たちは、皆博物館での体験を楽しんでいたようにでした。当館では今後もこうした試みが続けていきたいと考えております。

(学芸員 望月貴史)

■事業報告

# 第77回自然観察会 相の沢キャンプ場

開催日：令和元年7月28日(日)

相の沢キャンプ場は鞍掛山のふもとにあり、岩手山へと続く森にすむ虫と、キャンプ場から牧場へと広がる草地にすむ虫の両方を見ることが出来ます。

「見る」といっても、虫たちは小さいので、離れて眺めるだけではその面白さがわかりません。網などで捕まえ、できるだけ手で持ってじっくり観察することが大切です。今回の観察会でも、子ども

だけでなく大人も網を持って虫を追いかけました。

捕まえた昆虫の名前や詳しい生態は、講師の千葉武勝先生(当館研究協力員)から教えていただきました。観察コースで特によく見られたのはツヤコガネやオウラギンスジヒョウモン、イナゴモドキで、同じ虫が多いと参加者に飽きられないか心配しましたが、「この虫はさっ

き見た〇〇だ！」と見分ける楽しさもありました。また、子どもたちに人気のカブトムシ、クワガタムシも現れ、1日で40種以上の昆虫やクモを観察することが出来ました。

夏らしい暑い日でしたが、元気に虫を追いかける子どもたちのおかげで、楽しい自然観察会となりました。

(専門学芸調査員 渡辺修二)



大人も子どもも網を持って虫探し



講師の千葉先生が解説



手乗りオニグモ

■活動レポート

# トピック展 ホネの動物園2019

開催日：令和元年7月2日(火)～8月25日(日)

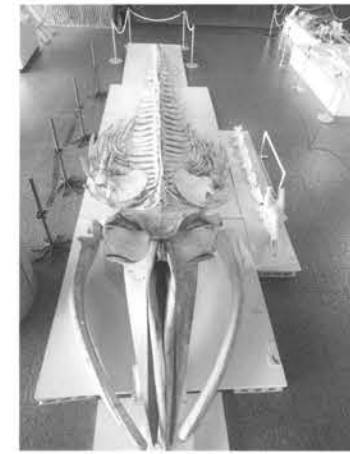
好評を博した「ホネの動物園」(平成28年3月～4月開催)の第2弾として、学校の夏休み期間に合わせ、当館収蔵の様々な動物の骨を展示しました。ひときわ目立ったのが、全長8mもあるクロミンククジラの全身骨格です。頭骨だけでも約2mあり、3人がかりでやっと運べる重さでした。展示テーマの一つは「首の骨の数」で、クジラにも首があり、



骨のゴリラとヒトがお出迎え

他の哺乳類と同様に7個の骨でできていること、また、体に対して首がとても短いことをキリンと比較して解説しました。

「他人の空似」コーナーでは、よく似



クジラとキリンの首の比較展示

た顎と歯を持つワニとイルカを並べて展示しました。どちらも水中で魚を捕る生活に適した形をしており、全く異なる種類の生き物でも、同じような生活をしているものは進化するにつれて形態が似てくることを解説しました。

人気の骨展示、次回の企画にもご期待ください。

(専門学芸調査員 渡辺修二)



グランドホールに骨がすらすら

■事業報告

# 令和元年度 自然体験活動における安全管理研修会

開催日：令和元年10月1日(火) 主催：いわて森林インストラクター会(盛岡地区) 共催：環境学習交流センター・岩手県立博物館

博物館は様々な研修会の会場としても使われています。展示品に関係する内容であることが多いのですが、今回は展示と全く関係の無い「自然体験活動における安全管理研修会」が当館を会場として行われたので紹介します。

今回の研修会は講師に、くりこま高原自然学校長である塚原俊也氏をお招きして、野外で活動する際に子どもたちも含めた参加者を引率・指導する立場にある人間が危険を予知し、万が一の際に適切な対処ができるようになることを目的に開催されました。盛岡周辺で子どもの野外活動などの指導をする機会のある方々が30名ほど集まり、当館からも自然科学系の学芸員が参加しました。

講習は午前の講義と午後の実習に分け

て行われ、講義では一般的な知識や対処方法もですが、「危険を予知し回避するポイント」ということに重点を置いた内容でした。危険だから近づかない・やらないではなく、どこまでなら大丈夫か、どうすれば危険な状態に陥らずに済むのか、そこを見極めることで活動の範囲を広げようということです。午後は実践的な内容で、例えば野外活動の「参加者」役の人物が突然具合を悪くし、その症状に応じて「指導者」役の参加者が協力しながら対応する訓練などを行いました。その症状の原因は？ 対応方法は？ 知識として知っていてもいざというときに思い出せなかったり必要な物が手元に無かったりします。実際の経験を積むことの大切さを感じさせられました。与えら

れた状況にどのように対応するのか、講習参加者同士でそれを見るだけでも大いに参考になったように思います。

(主任専門学芸調査員 山岸千人)



リュックを使って怪我人を楽に運ぶ





# 岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

## インフォメーション 〈令和元年12月1日～令和2年3月31日〉

### お知らせ

#### ●年末年始の休館について

年末年始は12月29日(日)～1月3日(金)まで休館します。

### 展覧会

#### ●大津波プロジェクト 支援特別展

共同展「被災資料再生の今 一過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ」

令和2年1月11日(土)～2月24日(月・祝) 会場：2階・特別展示室

東日本大震災で被災した文化財の再生技術と、再生された古文書類等からみえる三陸沿岸の生活の一端を紹介します。

#### ◆展示解説会

令和2年1月19日(日)、2月2日(日) (時間未定)

#### ◆特別講演会(県博日曜講座を兼ねます)

1月19日(日)または2月2日(日) (日時未定)

「再生された近世文書に見る三陸の暮らし(仮)」 講師:兼平賢治(東海大学准教授)

※日程は当館ホームページでご確認ください

#### ●テーマ展 「化石の水族館」

令和2年3月14日(土)～5月6日(水) 会場：2階・特別展示室

岩手県内外のさまざまな時代の化石の展示をとおして、皆さまを「地質時代の水族館」へとご案内します。

#### ◆展示解説会

令和2年3月15日(日)、3月29日(日)、4月19日(日)

各回とも14:30～15:30 特別展示室 要入館料

#### ◆特別講演会(県博日曜講座を兼ねます)

令和2年3月28日(土) 13:30～15:00 地階・講堂 聴講無料

〔演題未定〕

講師:宮田真也氏(城西大学水田記念博物館大石化石ギャラリー学芸員)

#### ◆県博日曜講座

令和2年4月26日(日) 13:30～15:00 地階・講堂 聴講無料

「生命史をひもとく—ジュラ紀—」 講師:望月貴史(当館学芸員)

### 県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

#### \*展覧会関連講座

12月 8日「クマガラ・サンコウチョウ・岩手のライチョウ」

講師:藤井忠志(当館学芸員)

1月 12日「いわての操り人形」

講師:木戸口俊子(当館学芸員)

#### \*1月19日または2月2日(日時未定)

「再生された近世文書に見る三陸の暮らし(仮)」 講師:兼平賢治(東海大学准教授)

1月26日「夕暮のお仕事」 講師:山岸千人(当館学芸員)

2月 9日「岩手のトンボ」 講師:渡辺修二(当館学芸員)

2月23日「陸前高田のれきし散歩」 講師:菅野誠喜(当館学芸員)

3月 8日「雑学のススメ」 講師:高橋廣至(当館館長)

#### \*3月28日(土)〔演題未定〕※22日(日)から日程変更

講師:宮田真也氏(城西大学水田記念博物館大石化石ギャラリー学芸員)

#### \*4月26日「生命史をひもとく—ジュラ紀—」 講師:望月貴史(当館学芸員)

### 第5回 北上川水源地域セミナー

令和元年12月15日(日) 13:30～15:00 地階・講堂 当日受付 聴講無料

テーマ 「北上川の伝説—川とあの世と災害伝承—」

講師:近藤良子(当館学芸員)

### 冬のワクワクワークショップ

令和2年1月11日(土) 9:45～11:30 13:00～15:00

先着100名 当日随時受付

混雑時はお待ちいただく場合があります。

幼児(3歳以上・要保護者同伴)～小学生対象 要材料費(100円)

「化石のレプリカ」をつくります。化石はアンモナイト、三葉虫のどちらかを選ぶことができます。

### 週末の催し

#### ◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○12月7日 クリスマスアニメ特集(アニメ/計92分/幼児～小学生向け)

「すてきなコンサート クマのおいしゃさん」

「クリスマスのおくりもの」

「神様がくれたクリスマスツリー」ほか

○1月4日 新春特集(アニメ/99分/幼児～小学生向け)

「MARCO 母をたずねて三千里」 貧しい人々のための診療所を経営する夫を助けるため、マルコの母はアルゼンチンに出稼ぎに行きました。9歳のマルコは、母の身を案じ、12000キロの旅に出ました。

○2月1日 岩手が舞台のドラマ(実写/112分/一般向け)

「ホーム・スイートホーム」 岩手のグループホーム「おぼんでがんす」を舞台に心優しい人たちのふれあいと再生のドラマです。そして、感動のラストが…。

○3月7日 防災と名作アニメ(アニメ/計85分/幼児～小学生向け)

「サル太郎地震には負けないぞ!地震への備え大作戦」地震の知識のなかったサル太郎は大慌て。動物村はパニックになりました。

「三人の騎士」ある日ドナルドダックに届いた、ラテンアメリカの友人からの誕生日プレゼント。大きな箱に入っていたのは、映写機と8mmフィルムでした。

#### ◆チャレンジ! はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ! マークをさがして はくぶつかんをたんけん!

12月 14日・15日・21日・22日 テーマ:顔

1月 11日・12日・13日・18日・19日 テーマ:住

2月 8日・9日・15日・16日 テーマ:冬

3月 14日・15日・21日・22日 テーマ:石

#### ◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生20名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館

時間(9:30～16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

12月	1日	松ぼっくりのXmasツリー	1月	5日	みすきだんご
	8日	まゆで干支づくり(子)		12日	たこづくり
	15日	かんたん門松		19日	木のごまの絵つけ
	22日	まゆで干支づくり(子)		26日	オリジナル卵をつくろう
	29日	(おやすみ)			
2月	2日	化石のレプリカ	3月	1日	お絵かきはんこ
	9日	土偶づくり		8日	アンモナイトの消しゴムづくり
	16日	おひなさまづくり		15日	手づくり万華鏡
	23日	スライムであそぼう		22日	天然石のフォトフレーム
				29日	ウォータードームづくり

### 冬休みスペシャル

#### ★ワードパズル★

パズルをときながら展示室をたんけんしよう!

「かんたん」「ひつう」「むずかしい」、3つのパズルから選んでチャレンジしてね。

期間:令和元年12月21日(土)～令和2年1月10日(金)

9:30～(博物館が開いている時間ならいつでもOK)

#### ★ワクワク! 子どもツアー★

たからものがいっぱい展示室を、解説員といっしょにたんけんしよう!

期間:令和元年12月22日(日)～令和2年1月19日(日)

日曜日10:30～、日曜日以外13:30～、各30分程度

※1月11日(土)はお休みします。

### 冬の写生会

写生会:令和元年12月14日(土)～令和2年1月13日(月・祝)

作品展示:令和2年1月18日(土)～2月9日(日)

博物館の風景を描いてみませんか? 作品は館内で展示します。

※絵を描く道具は各自で準備してください。

### ミュージアムコンサート

親子で楽しめるクリスマスの音楽会♪

12月21日(土) 13:30～14:15頃 地階・講堂 当日受付 鑑賞無料

盛岡第三高等学校吹奏楽部のみなさんがクリスマスやディズニー映画のメロデーなど、親子で楽しめる演奏やクイズをおこないます。

### 博物館でマジックショー

12月22日(日) 14:30～15:30 講堂 当日受付 鑑賞無料

盛岡アマチュアマジシャンズクラブのみなさんが、テレビでも人気の手品を披露します。

### 定時解説

平日～土曜日 13:30～14:30/日曜日 10:30～11:30

解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様のご質問や解説のご要望におこたえしています。

※他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

### 利用のご案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜日が休日の場合は開館、翌平日休館)

年末年始(12月28日～1月3日)

■入館料 一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料

( )内は20名以上の団体割引料金

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第163号 令和元年12月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595
------------------------------------	---